

令和7年度 第22回

「家族のきずな」

エッセイ集



公益財団法人

モロロジー道徳教育財団

共 催：麗澤大学／麗澤中学高等学校

後援：千葉県／千葉県教育委員会／柏市／松戸市／柏市教育委員会／松戸市教育委員会／我孫子市教育委員会

鎌ヶ谷市教育委員会／流山市教育委員会／野田市教育委員会／柏市PTA連絡協議会／株式会社ジェイコム千葉 東関東局

「人づくり」による「国づくり」を モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

モラロジーとは

モラロジー (moralogy) は、「道徳」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団

モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正 15 (1926) 年の創立以来、「道徳で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道徳的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じて SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて取り組んでいます。

令和7年度 第22回 「家族のきずな」エッセイ集

目次

2	ごあいさつ	公益財団法人 モラロジー道德教育財団 理事長 廣池 幹堂
---	-------	---------------------------------

3	講 評	選考委員長 柏市小中学校校長会 会 長 三浦 邦彦
---	-----	------------------------------

4	入賞・入選作品一覧	
---	-----------	--

6	ご応募いただいた小学校	
---	-------------	--

7	入賞作品	
---	------	--

17	入選作品	
----	------	--



ごあいさつ

公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 理事長

ひろいけ
廣池 幹堂

モラロジー道徳教育財団では、子どもたちが家族の大切さに気づき、豊かな心を育むことを目的として、毎年「家族のきずな」をテーマとしたエッセイ募集事業を実施しております。今年度も千葉県、柏市、松戸市、千葉県教育委員会、東葛六市の各教育委員会（柏、松戸、我孫子、鎌ヶ谷、流山、野田）、ならびに柏市PTA連絡協議会、ジェイコム千葉東関東局よりご後援をいただき、二十二回目を迎えることができました。

本年も小学五年生を対象として、東葛六市の教育委員会によるご協力のもと、各小学校に募集を呼びかけましたところ、二十八校から千二百十六編のエッセイが寄せられました。本冊子には、その中から厳正なる審査によって選ばれた入賞十編と入選四十編を掲載しております。

多くの児童から寄せられたエッセイは、家族との心の交流や感謝の心、祖先を思う心、いのちのつな

がりの大切さなどが素直に表現されていて、どの作品も感動的なものばかりです。ご応募いただいた児童の皆様、ご指導や募集にご協力をいただいた各学校の先生方、ならびに原稿の審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様、各団体、協賛企業をはじめとする関係各位に改めて感謝を申し上げます。

個人の多様性が重視され、人と社会との繋がりが薄れているのではないかと思う報道を目にすることもありますが、いかなる時代におきましても教育の原点は家庭です。家族・親・祖先とのつながりを感じる時、子どもたちは喜びと生きる力を得ることができます。このエッセイ募集事業と本冊子に掲載された心温まる作品が、少しでも「家族のきずな」を強め、家庭・学校・地域社会が一体となって子どもたちの豊かな心を育む機会の一助となりましたら、誠に幸いに存じます。

講評

選考委員長

柏市小中学校校長会 会長

三浦邦彦

この度は、家族のきずなエッセイ募集に際して、数多くの素晴らしい作品をお寄せいただき感謝申し上げます。皆様からいただいたエッセイは、どの作品も家族への温かな想いや、かけがえのない思い出が詰まった作品ばかりでした。当たり前のように過ごしていた日々の中で、ある出来事をきっかけに家族との絆を強く感じたこと。普段、家族からの言葉を素直に受け入れられない自分が、友達からの助言で少し変わった事等、なかなか言葉で表す事ができない事象を「文字」にすることで、家族への思いやそのエピソードを綴った温かな作品の数々でした。「文字」にすると気持ちがいまぐわく伝わらないと言われる場合があります。しかしながら、みなさんのエッセイは、言葉を選び、文章の構成を考え、読み手に伝わるような工夫が施されていました。嬉しかった事、心が震えるほど感動した事、文章に直接書かれていた文字だけではなく、その行間からも皆さんの伝えたい想いを読み取ることができました。皆さんの作品はまさに「文字」で書くことの良さにあふれた作品であったと思います。一人一台端末が子どもたちに貸与され、その利便性からICT機器を活用した学習形態が加速する中、「書くこと」について、改めて取り組んでいく必要性を感じています。ICTの活用能力を高めながら「文字」についても今まで同様に扱っていく、これからの子どもたちには、そのような両輪のバランス感覚が求められてくると考えます。

今回のエッセイを通じて皆様の温かい気持ちに「文字」を通じて触れる機会ができた事は、たいへん嬉しく、光栄に思いました。今後とも、皆様にとって心温まる、豊かな毎日が続くことを願っております。

最終選考委員

選考委員長	三浦 邦彦	柏市小中学校校長会会長 柏市立柏第一小学校校長
副選考委員長	水野 次郎	公益財団法人 モロロジー道德教育財団 学校教育支援センター 副センター長
選考委員	遠藤 須美子	柏市教育委員会 学校教育部 指導課 副参事
	井原 滋	松戸市教育委員会 学校教育部 学習指導課 指導主事
	酒井 学	株式会社ジェイコム千葉 東関東局 局長
	江島 顕一	麗澤大学 大学院学校教育研究科 教授
	川部 翔	麗澤中学高等学校 教諭
	富田 裕之	公益財団法人 モロロジー道德教育財団 コンテンツ開発局 局長
	中澤 史隆	公益財団法人 モロロジー道德教育財団 広報部 部長

令和7年度 第22回「家族のきずな」エッセイ 入賞・入選作品一覧

★ 千葉県知事賞 私のお姉ちゃん	流山市立長崎小学校 なか かど り 中 角 莉	5年 さ 沙
★ 柏市長賞 海を越えてもつながる絆	柏市立柏第三小学校 やま ぐち ち 山 口 千	5年 さと 聡
★ 松戸市長賞 私のかくれ家	松戸市立南部小学校 お がわ とも 小 川 倫	5年 か 果
★ 柏市教育長賞 一致団結	柏市立柏第七小学校 もろ り ここ 毛 利 心	5年 み 美
★ 松戸市教育長賞 弟 大好き!	松戸市立幸谷小学校 なみ き ほの 並 木 穂	5年 か 花
★ 柏市小中学校校長会会長賞 わたしだけのやさしいお母さん	柏市立風早北部小学校 み やま ひ ま 深 山 妃	5年 まり 葵
★ 柏市PTA連絡協議会賞 ぼくのスーパーお父さん!	柏市立柏第四小学校 すぎ やま 杉 山	5年 りょう 諒
★ ジェイコム賞 私とお父さんとがん	鎌ケ谷市立道野辺小学校 はた なか 畑 中 信	5年 の 乃
★ 麗澤大学賞 今、伝えよう	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 さ さ き 佐々木	5年 たける 健
★ モラロジー道德教育財団賞 私の家族	流山市立西初石小学校 くろ さわ ゆう 黒 澤 優	5年 か 花

入 選

★掲載順=氏名50音順

松戸へのひっこし	松戸市立北部小学校	5年	青 山 功
だいじょうぶだよー人じゃない	柏市立柏第三小学校	5年	赤 松 凜 香
家族のはげまし	松戸市立小金小学校	5年	阿 部 仁衣奈
いつかは亡くなる大事な命	柏市立光ヶ丘小学校	5年	有 川 真 愛

夜ご飯	柏市立田中小学校 5年	一 條 すみれ
ちょっとたよれる弟	松戸市立南部小学校 5年	岩 佐 香 那
僕の嘘と本当	柏市立風早北部小学校 5年	大 西 夢 斗
家族の応援で頑張れた体操の大会	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	恩 田 育 弥
家族って、なんだろう	柏市立逆井小学校 5年	甲 斐 陽 太
たおれたお父さん	松戸市立南部小学校 5年	海江田 颯 太
改めて感謝したあの時	柏市立光ヶ丘小学校 5年	加 藤 結 衣
生まれてきてくれた弟	鎌ケ谷市立道野辺小学校 5年	金 森 心 絆
家族と出かけたあの日・・・	流山市立長崎小学校 5年	金 木 想 美
僕が病気の時	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	金 子 勇 晴
家族がくれた自信	柏市立柏第三小学校 5年	川 村 芽 生
家族の笑顔	松戸市立幸谷小学校 5年	江 鈞 欽
おばあちゃんへのおん返し	流山市立長崎小学校 5年	古 賀 陽和子
「当たり前」じゃない	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	小 玉 薫 音
自慢の家族の励ましの言葉	柏市立光ヶ丘小学校 5年	小 山 燈
ぼくの誕生日	柏市立柏第三小学校 5年	佐久間 架 太
甘くないたまご焼き	柏市立風早北部小学校 5年	佐 竹 凜 和
大切な存在	柏市立柏第四小学校 5年	清 水 果乃葉
母との漢字勉強	柏市立光ヶ丘小学校 5年	菅 野 陽 凜
家族のきすなパン	柏市立柏第七小学校 5年	須 藤 瑛 穂
僕の世界一のおじいちゃん	柏市立風早北部小学校 5年	相 馬 颯 人
大切な人	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	竹 内 菜 波
家族のおかげ	鎌ケ谷市立道野辺小学校 5年	立 山 彩
きせき	流山市立長崎小学校 5年	田 中 響
大切なお父さん	鎌ケ谷市立道野辺小学校 5年	豊 島 士 恩
家族という存在の大切さ	松戸市立小金小学校 5年	中 村 時 啓
ぼくの大切な家族	流山市立長崎小学校 5年	成 嶋 瞭 駕
そばにいる人	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	福 田 梨 央
当たり前の日常	柏市立風早北部小学校 5年	藤 本 陽 菜
バアバの死	柏市立柏第四小学校 5年	前 田 遥 人
家族へありがとう	鎌ケ谷市立道野辺小学校 5年	松 本 廉太郎
協力は力なり	柏市立光ヶ丘小学校 5年	宮 原 悠 人
家族で成功、発表会 !!	柏市立柏第四小学校 5年	宗 像 杏 友
大好きなひいおばあちゃん	流山市立長崎小学校 5年	村 中 咲 良
家族のエール	松戸市立小金小学校 5年	門 馬 汐 音
だいすき	柏市立柏第七小学校 5年	渡 邊 は な

応募いただいた小学校



柏市 (14校)

柏市立 柏第一小学校
柏第三小学校
柏第四小学校
柏第五小学校
光ヶ丘小学校
田中小学校
田中北小学校
柏第七小学校
旭小学校
中原小学校
酒井根西小学校
逆井小学校
風早北部小学校
手賀東小学校



鎌ヶ谷市 (3校)

鎌ヶ谷市立 鎌ヶ谷小学校
東部小学校
道野辺小学校



野田市 (1校)

野田市立 岩木小学校



流山市 (4校)

流山市立 江戸川台小学校
西初石小学校
長崎小学校
西深井小学校



我孫子市 (1校)

我孫子市立 布佐小学校



松戸市 (5校)

松戸市立 東部小学校
北部小学校
南部小学校
小金小学校
幸谷小学校

エッセイ応募総数 1,216編 応募小学校総数 28校

最優秀賞作品

千葉県知事賞

私のお姉ちゃん

流山市立長崎小学校

五年

なかかど
中角

りさ
莉沙

私には中学二年生のお姉ちゃんがあります。お姉ちゃんはいろんな病気があり、ねたきりの障がい者です。私の言ってる事に笑ってくれるので伝わりますが「あー、うー。」と言うだけで会話はできません。

出かける時は、バギーという子ども用の車いすで移動します。私は後ろから押して歩くのが好きです。めずらしい形だからジロジロ見られる事があすぎて、イヤな気分になります。お姉ちゃんの通っている支援学校にはい로운な障がいの子がたくさんいます。ふれ合っているとみんなかわいくて健康な子と同じです。障がい者だから、めずらしいとかでジロジロ見るのは違うと思います。

私はお姉ちゃんがいることで、困っている人がいたら声をかけて助けたくなったり、優しい気持ちを持つ事ができます。

私はそんなお姉ちゃんが大好きです。お父さんもお母さんもお兄ちゃんもみんなお姉ちゃんが大好きで、我家のアイドルです。

優 秀 賞 作 品

柏 市 長 賞

海を越えてもつながる絆

柏市立柏第三小学校

五年

山口 やまぐち

千聡 ちさと

私のお父さんはタイやインドなどの外国での仕事が多く、日本をはなれて
いることが何年もありました。私はお母さん、お兄ちゃんと一緒に日本でく
らしていましたが、お父さんが旅立つ日の前日は、いつもむねがしめつけら
れるようでした。いつも一緒に遊んでくれて、おいしい料理を作ってくれた
お父さん……。さみしくて悲しい顔をしてしまう私を支えてくれたのは家族
でした。お母さんはいつもそばでやさしく見守ってくれて、お兄ちゃんは面
白いことを言って笑わせてくれました。遠くに住んでいる祖父母も電話して
くれたり、遊びに来てくれたりしてさみしい思いをしている私たちをはげま
してくれました。お父さんもインドからのビデオ電話で日ごろの生活の様子
や有名な観光地などの話を聞かせてくれました。私の周りには、私を思いやっ
てくれる人がたくさんいることに気づいたのです。はなれていても、心はつ
ながっているということを実感できた体験だったと思いました。

優 秀 賞 作 品

松 戸 市 長 賞

私のかくれ家

松戸市立南部小学校 五年

小川 倫果 おがわ ともか

私の家は農家です。同じしきち内の歩いてすぐにおじいちゃんとおばあちゃんの家があります。学校の登下校の時やうれしいことがあった時や、母にしかれた時など、おじいちゃんとおばあちゃんの家に行っています。

とくにしかれた時は、こっそりおじいちゃんとおばあちゃんの家になげ、仏様においてあるおかしをたべたり、おばあちゃんたちの夕食をつまみ食いしたりしています。

私が行くと、おばあちゃんは母にしかられてにげてきたことがすぐわかり、話を聞いてもらうとおばあちゃんもしんけんに聞いてくれて、心がすつきりして最後は、笑顔で家に帰ることが出来ます。

私のかくれ家であるおじいちゃんとおばあちゃんの家が近くにあることは、とつてもうれしいことです。これから二人は元気で、長生きしてほしいです。

優 秀 賞 作 品

柏 市 教 育 長 賞

一 致 団 結

柏市立柏第七小学校 五年

毛利 心美
もうり ここみ

私には、弟と妹がいる。私は、三人兄弟の一番上だ。二番目は弟、三番目は妹だ。私たちは、よくけんかする。特に、弟と妹がよくけんかをする。年齢が近いからだ。

そんな私たちにも、一致団結できるときがある。沢山ある。特にニコニコしているのは、お父さんにイタズラをしかけるときだ。話し合って、役わりを決める。そして、実行する。話し合うときから、みんなニコニコしている。どんなイタズラかというと、後ろから近づいて、おどろかしたり、ドッキリ用のゴキブリのおもちゃを使っておどろかしたりする。

私は、お父さんがイタズラに気づいているのを知っている。お母さんも知っている。お父さんは、私たちがイタズラをするときに、ニコニコするのを知っている。だから、おどろいたふりをして、私たちを喜ばせる。私はそこに「家族のきずな」を感じる。ずっと仲が悪いというわけではない。家族で笑うときは、沢山ある。それが続けばいいなと思う。

優 秀 賞 作 品

松 戸 市 教 育 長 賞

弟 大 好 き ！

松戸市立幸谷小学校

五年

並木 なみき

穂花 ほのか

私には弟が五人います。男ばかりなので、家は目を覚ました時からねる時まで毎日賑やかです。宿題やテレビを見ている時は静かにしてほしい時もあり、「うるさい、静かにして！」

と怒る時もあります。しかしそんな事を言っても静かにはなりません。なのでうるさいのをがまんして宿題をしたりします。けんかも毎日します。一人っ子になりたいと思うこともあります。でも最近私が目にするニュースを見て気付いた事があります。災害や事故で人が亡くなるニュースを見る度に、人はいっ何が起きていなくなってしまうか分らないという事です。それは自分にも起こり得る事かもしれないと思ったら怖くなり、とても悲しい気持ちになりました。それと同時に、今弟たちと楽しく毎日過ごせる事や賑やかな事がとても幸せな事に気付きました。私にとって家族は宝物です。

これからも日常にある小さな幸せに気付いていけるそんな人になりたいです。

優 秀 賞 作 品

柏市小中学校校長会会長賞

わたしだけのやさしいお母さん

柏市立風早北部小学校

五年

深山 みやま

妃葵 ひまり

わたしのお母さんは、よくおこる。妹にも弟にもわたしにも、どうしてそんなにおこるんだろうとわたしは思った。そんなお母さんいやだなと思った。けれど、やさしくしてくれることも少なくはない。やさしくしてくれるときはだきしめてくれる。だけどさすがにおこりすぎだなと思っていたわたしはお母さんの意外なところを見つけてとても感動した。

お母さんは妹と弟がねたあとにわたしにやさしく声をかけてくれた。

「こっちにおいで。」

とお母さんによばれて行くと、ぎゅっとやさしくだきしめてくれた。そしてこう言った。

「いつもお手伝いしてくれてありがとね。」

そのやさしい言葉がうれしすぎて泣いてしまった。その時に気づいた。お母さんはおこりたいからおこっているのではなく、自分の子どものことが大切だからなにかにまきこまれないように注意してくれていたのだとわかった。それからわたしはお母さんに心配をかけないようにしようと思った。

優 秀 賞 作 品

柏市PTA連絡協議会賞

ぼくのスーパードaddyさん！

柏市立柏第四小学校 五年

すぎやま
杉山 諒
りょう

ぼくのお父さんは、ラーメン屋の仕事をしています。お父さんは毎日仕事の休けい時間に、いそがしいのにわざわざぼくと遊ぶために帰ってきてくれます。ぼくはお父さんと、サッカーや野球、ドッジボールをして遊ぶのが好きです。お父さんの休みの日は水曜日だけです。それでも休みの日は必ずどこかへ遊びに連れていってくれます。そしてなにより家族みんなのために毎日仕事をがんばってくれています。ぼくはお父さんの作るチャーハンはおいしいと思っています。だからたくさんの人にお父さんのチャーハンを食べてほしいと思います。ぼくも早く大きくなって料理の勉強をしてお父さんのお手伝いをしたいです。遊びに連れていってくれたり仕事をいっしょうけんめいがんばってくれたり、やさしいお父さんにいつも感謝しています。ぼくも大人になったらお父さんみたいな人になりたいです。

優 秀 賞 作 品

ジェイコム賞

私とお父さんとがん

鎌ヶ谷市立道野辺小学校

五年

畑中 はたなか

信乃 しの

私の父親は私が二年生ごろに食道がんになった。ステージⅢの五年生存率は、約十%から三〇%程度。あと五年生きられるかはびみょうだった。それから約二年、私は四年生になった。友達から友達のお父さんが亡くなったことを聞いた。とても悲しい気持ちだったと思う。私のお父さんが亡くなったら友達の悲しい気持ちがわかるのか…。四年生の二学期ごろ食道がんから脳に転移した。あまり長く生きられないと医者に診断された。五年生の四月ごろ、もう手のうちようがなくなった。あとは亡くなるのをまつだけだそうだ。あと何ヵ月あと何日生きられるか…。せめて死ぬ前にお父さんの行きたいところ、したいことを叶えてあげようと家族でがんばっている。そんなある日、お父さんが入院した。お母さんは、お父さんにもう一つがんが転移したし、本当に死んじゃうからと泣いている。私はそれを聞いてすごく泣いたし、とてもぜつぼうした。だからもつと家族を大切にしたい、もつと…。

優 秀 賞 作 品

麗 澤 大 学 賞

今、伝えよう

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

佐々木 健 ささき たける

ぼくは、「ありがとう」「ごめんなさい」を普段からちゃんと伝えるようにしています。家族から「当たり前だからいいよ」「えらいね」と言われますが、ぼくには言う理由が二つあります。

一つ目は、三年生の時ぼくが教室になかなか行けなかった時に、先生たちが気持ちを休められる居場所を作ってくれたり、家族がぼくが話しやすいようにキャッチボールをしながら学校の話を聞いてくれたりしたことでがんばれるようになったので感謝しているからです。

二つ目は、三年生の終わりにおじいちゃんが亡くなったことです。前から病気ではあったけれどあまりに急だったのでショックを受けました。

こうした二つの理由から家族や周囲の人と助け合ったり何かをしてもらったりすることや当たり前にいた人が急にいなくなることもあるということを知り、自分の気持ちを、今は伝えています。

優 秀 賞 作 品

モラロジー道德教育財団賞

私の家族

流山市立西初石小学校

五年

黒澤 くろさわ

優花 ゆうか

私は、お父さん、お母さん、二人のお姉ちゃん、私、妹の六人家族だ。お母さんと二人のお姉ちゃんとは血がつながっていないが、私たちは仲良しだ。私はもともとお父さんと二人きりでくらしていた。一年生の時、お母さん、二人のお姉ちゃんと出会い、五人でくらすことになった。そして、お父さんと二人での生活ではできなかったことが色々できるようになった。お母さんにピアノを教えてもらったり、ねる前に「おやすみなさい。」と言ってタッチし、ハグしたり。一番目のお姉ちゃんには勉強を教えてもらっている。二番目のお姉ちゃんとは年が近いからけんかもするけど、いっしょに遊んだり学校のことで話し合ったりする。休日に家族で出かけることもある。そして、おとしの十月に妹が産まれた。今もいっぱいいたずらされるけど、かわいがっている。

私の家族はこの六人だ。たとえば血がつながっていなくても家族になれると私は思う。

入選作品

松戸へのひこいこ

松戸市立北部小学校 五年 青山 功 あおやま いさ

ぼくは今年の四月に茨城県から松戸市に引っこしてきました。それまでは、おじいちゃん、おばあちゃん、ひいおばあちゃん、母、僕の五人ぐらしでした。おばあちゃんは食事など家事を全部してくれていました。おじいちゃんは仕事を頑張って、いつも優しかったです。母はいつも仕事でいそがしかったです。今年に入り、転職で母との二人ぐらしが始まりました。最初は、ご飯を作ってくれるのか、そうじができるのか、洗たく物をやってくれるか不安で仕方がなかったです。いざ新生活が始まると意外に母の食事がおいしく、家事もきちんとしてくれます。一生けん命がんばっている母を見て、僕も家事のお手伝いや勉強をがんばろうと思いました。祖父母も電話をたくさんしてくれるのではなれていても心は一緒です。新生活は始まったばかりですが、母と二人三きやくの生活をがんばっていきたいです。家族みんなに僕を支えてくれてありがとを伝えたいです。

「だいじょうぶだよー人じゃない」

柏市立柏第三小学校 五年 赤松 凜香 あかまつ りんか

これはコロナが大流行した時期でした。母がはいえんになってしまい入院することになってしまいました。私はすごく心配になってしまいました。すると父が

「テレビ電話をしよう。」

と言いました。母が点てきをしてうつっていました。母は言いました。

「だいじょうぶ?こまってるない?」

私はひさしぶりの母の声を聞いて泣きそうになりましたが母を心配にさせたくないと思いぐつとこらえました。テレビ電話が終わり、ぐつとこらえていたなみだがあふれました。父と兄がだきしめてくれました。その夜は兄と私二人でねることになりました。私が母にあいたくてないていると

「だいじょうぶだよー人じゃない。」

といってくれました。この言葉は今でもわすれません。

家族のはげまし

神戸市立小金小学校

五年

阿部 あべ

仁衣奈 にいな

わたしは、ダンスを習っています。

五才の時から習い続けていますが、一度は辞めてしまおうと思いました。家族があの時のはげましをくれないければ、こんなにダンスでのたくさんの思い出はなかったと思います。

二年前、私はダンスで失敗ばかりでした。ホップやステップが上手いはず、このままではチームのみんなの足を引っ張ってしまうと思っていたその時、「自分なりにがんばればいいんじゃない？」と、お母さんが言ってくれました。

「それに、まだ時間はあるから今からでも練習したらきつと上手になるよ。」

と、お父さんも言ってくれました。

その言葉を聞いて、発表会ギリギリまで練習しました。そのおかげで、発表会で準グランプリを受賞をすることができました。

この事をきっかけに、家族とは、自分のささえになってくれるともかけがえのない大切な物だと気づいたのです。

いつかは亡くなる大事な命

柏市立光ヶ丘小学校

五年

有川 ありかわ

真愛 まあい

私のおじいちゃんは、約一年前亡くなってしまいました。おじいちゃんは埼玉県越谷市に住んでいたので、すぐに会うことはできませんでした。おじいちゃんはお話することが好きだったので、おじいちゃんに会うといつも一緒にお話しました。

でも私は、「おじいちゃんと話すと長くなるから少しめんどくさい」そう思っていました。

ある日の夜中おじいちゃんが転んでしまい病院にはこばれました。私はとても心配になりました。その後日おみまいに行きました。おじいちゃんは元気そうでした。

しかし、その約一ヶ月後に病気になってしまい、もう一度入院していた病院におみまいに行きました。そして、小学生は上の階に行けないと知り、お父さんのスマホでテレビ電話をし、少し話しました。それがおじいちゃんとの最後の会話でした。その数ヶ月後おじいちゃんが亡くなったと聞き、すごく悲しくなりました。

人は生きることがあたりまえじゃない。

入選作品

夜ご飯

柏市立田中小学校 五年 一條 すみれ いちじょう

私は、パスタが苦手です。みんなおいしいと言っているけれど、どうしても食感とクリームの味付けが慣れません。お店の味が苦手なんです。

でも、お母さんとお父さんはパスタが好きです。なので、パスタの苦手な私は、申し訳なく感じています。

しかし私は、お母さんの作るパスタなら食べられます。お母さんはいつも味を変えて作っています。妹も、にこにこして

「おいしいよ。」

と言っています。お母さんも笑顔になります。

私も心の中で

「おいしいな、どうして店と家でこんなに違うんだろう。」

と思いました。お母さんは、本当に何をしても食べられないものは出しません。私と妹の事を考えてくれています。お店は私たちの事を知りません。なのでメニューの品をそのまま出しています。お母さんの料理とお店の料理の違いが、よく分かりました。今日は、何が出るのかな？

ちよつとたよれる弟

松戸市立南部小学校 五年 岩佐 香那 いわさ

私には、一年生の弟がいる。あまえんぼうでいつも私にくっついてくる。

お父さんのたん生日に私は、お手伝いけんをあげた。そのお手伝いけんで千円分のお買い物をしてきとと言われた。「何でこんなお手伝いなんだよー」と不安になった。何をかくそう私は一人で買い物に行ったことがないのだ。弟も連れて行ってもいいと言われたので覚悟を決めておさいふ、エコバック、電たくを持って、近くのコンビニへ行った。お父さんには千円で好きな物を買ってもいいと言われていたので、私の好きな物と弟のおかしをカゴに入れレジに行った。いざお金を払う時とまどついたら、弟がまよわず現金ボタンを押したのだ。弟はお母さんやお父さんの行動をよく見ていて覚えていたのだ。

いつもあまえんぼうな弟がこんなたよれる弟だとは思いませんでした。弟がいっしょに行ってくれたので心強かったです。これからもよろしくね。

入選作品

僕の嘘と本当

柏市立風早北部小学校 五年 おおにし ゆめと
大西 夢斗

僕は前から嘘をたくさんつく人で、家族には、お風呂のそうじや家のシャッターをしめてとお願いされ僕に任された時は、やりたくないからお母さんに適当な理由を考え嘘をついた。その次の日、昨日お母さんに

「やってね」

と、任されていた家事をやっていないことがバレた。お母さんに

「嘘ついたでしょ!」

と言われ、僕は黙ってうなずいた。その日の夜までお母さんとの会話がなくなつた。

翌朝、僕は起きた時、昨日の出来事を思い出して、また会話をするのが少し怖くなつた。でも、お母さんの機嫌は悪くなくなつていた。それから、その日の学校でもなんとなくモヤモヤがあつて、あまり元気が出なかった。僕は数日後の夜、心の中で決心した。その日の夜、お母さんに謝つた。謝つた時、お母さんは笑顔で僕に言った。

「大丈夫だよ、でもこれからは、もうしないでね」と言われてスッキリした。それからもう、嘘はつかないと心の中で決めた。

家族の応援で頑張れた体操の大会

鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 五年 おんだ いくや
恩田 育弥

先日、体操の大会があつた。少し遠い会場だったが家族全員が見に来てくれた。だが僕は見られたら余計に緊張すると思つたからそんなに乗り気ではなかつた。

いよいよ自分の番が始まつた。練習ではそんなに緊張していなかつたが今は全身が震えるくらいに緊張していた。いつも練習している仲間と違い、たくさんの人が見に来ていた。選手やコーチも知らない人だらけだつた。でも来てくれた家族が手を振って応援してくれたから、緊張が少しほぐれた。

最後の自分の種目の跳び箱の前、仕事を終えてかけつけてくれた母の姿が見えて、さらに元気が出た。緊張はまだ残っていたが家族の応援のおかげでやる気がわいてきてうまく跳ぶことができた。着地も完璧だつた。終わった後、母が頑張つたねと言つてくれてとても嬉しかつた。

大会の後にみんなで行つたレストランの味はいつも以上においしかつた。

入選作品

家族って、なんだろう

柏市立逆井小学校 五年 甲斐陽太

家族、それは一番身近にいる存在。だから、お互いの事はよく知っている。でも、自分の一つの行動で、家族を傷つけてしまうことがある。それって、なぜだろう。お互いの事はよく知っているのに、ちゃんと考えて行動したのに、なぜだろう。それは、人に心があるからだ。いくら家族でも、心の声は自分にしか聞こえない。心というのは、自分にしか分からない。だから、考えて行動しても、家族を傷つけてしまう。でも、それを自分の口から言葉として出すことで、自分が傷つかないかもしれない。家族を傷つけないかもしれない。だから、自分の心の声を、ちゃんと聞いてみよう。それは、知らない人でも同じだ。

「この人困ってるのかな。」「どうしたんだろう。」

そんな時は、勇気を出して聞いてみよう。やっぱり、家族って大事。大事な家族が傷つかないよう、相手の事を考えよう。自分の事を考えよう。そうすれば、家族の事がもっと分かる。一生続く宝物、それは家族。

たおれたお父さん

松戸市立南部小学校 五年 海江田 颯太

ぼくのお父さんは、ぼくが一年生のときにたおれてしまった。その原因はのう出血だ。そのときぼくとお母さんはおじいちゃんの家にて、すぐにかけつけられなかった。

そして、なんとか一命を取りとめたものの左半身にまひが残ってしまい、思うように動かせなくなつた。そこから八カ月間入院をしてお父さんはリハビリをがんばり、つえをつけば歩けるようになった。入院中にコロナがはやってしまいお見まいに行けなかった。ぼくはとても心配でどきどきした。

今、お父さんは週に二回リハビリに行っているが、週に四回仕事にも行っている。お風呂や着がえ、つめ切りなどができないので、ぼくやお母さんが手伝っている。医師にもまひは治らないと言われていて、お父さんには少しでもできることをふやしてほしい。ぼくもできることがあれば手伝ってあげたい。

入選作品

改めて感謝したあの時

柏市立光ヶ丘小学校 五年 加藤 結衣^{かとう ゆい}

私が三才のときに妹が産まりました。

産まれてすぐお母さんは妹といっしょに病院に入院していて、私はあまりお母さんに会っていませんでした。お母さんのかわりにおじいちゃんおばあちゃんがとおとまりに来てくれたり、お父さんが家の仕事をすべてやってくれたりしました。そして私はなんだかいつもとちがうと思いました。次に、妹が産まれてお母さんが家にかえってきた日のことでした。

三才だった私は、お母さんがかえってきて大よろこびでした。でもその次の日は私が想像していた一日ではありません。たくさんお母さんと遊べると思っていたが、お母さんは、妹のお世話でおおそがしで私は妹にお母さんをとられてしまった気がしました。

このような出来事もたくさんありましたが、今は妹が産まれてきてくれてとてもうれしいですし、妹をがんばって産んでくれたお母さん、そして家族のために働いてくれたお父さんなど改めて「ありがとう」と思いました。

生まれてきてくれた弟

鎌ヶ谷市立道野辺小学校 五年 金森 心絆^{かなもり ここな}

私の家族は、父・母・弟二人がいます。弟の一人は、私が三さいの時に生まれて、もう一人は、去年生まれました。弟が生まれて私と父と母も、とつてもよろこんだし、とつてもうれしかったです。

でも、ときどき思ってしまう。

「私って、愛されてるのかな。」

私は、もちろん弟がうまれてくれて、とつてもうれしいです。でも私は、とつてもしつとぶかいせいかくなので、弟にママとパパをとられていないかな、としんばいになります。でも、私は今になって、

「ママとパパがいるから、こんなに楽しい、幸せなくらしがおくらているんだ。」

と気がつけました。

「ママ、パパ、今まで気づけなくてごめんね。」

弟が生まれてくれたおかげで、私は気がつけました。

「ママ、パパ、弟、本当にありがとう。」

入選作品

家族と出かけたあの日・・・

流山市立長崎小学校

五年

金木 かねき

想美 このみ

わたしは、春休みに栃木市にある蔵の街という所にこいのほりを家族で見に行きました。

そこには、巴波川（うずまがわ）に沿って「いいこい」にちなんだ千百五十一匹のこいのほりがかざられていました。巴波川には、こいやカモがたくさんいて家族でながめていたら、近所に住むおばあさんが声をかけてくれました。おばあさんは、こいのエサをもつてきてくれて蔵の街の歴史をたくさん教えてくれました。うれしそうに色んな話をしてくれたおばあさんでしたが、お別れする時はなんだかさみしそうで、わたしもさみしくなつてまた来る約束をしてお別れしました。

わたしがこの思い出を書いたのは、小さなことに思えますが、わたしにとっては大きく心に残る思い出だったからです。おばあさんの事を思い出すたびに、家族や身近な人と話す時間を大切にしなければと感じさせてくれます。家族の大切さをあらためて感じさせてくれた、私たち家族のすてきな思い出です。

僕が病気の時

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

金子 かねこ

勇晴 ゆうせい

僕は去年の春休みに胃腸炎にかかりました。その時のことを書きます。

最初は、なんとなく気持ち悪くなってきたけれども、ますます体調が悪くなって吐くようになってしまいました。お母さんがすぐに病院に連れていってくれました。病院でもらった薬がじょう剤で、僕が飲みづらそうにしていたら、お母さんが薬をゼリーの中に入れてくれました。よくが何も食べられなくなったから、お母さんがりんごをすったものやアイスクリームなどを作ってくれました。何日かたつて食欲が少しもどってきたら、お母さんがたまご焼きとしゃけを焼いたのを作ってくれました。僕はそれが今までで一番おいしく感じました。

病気の時に人にやさしくしてもらうと、すごくうれしいと思いました。今度は、家族が病気になったら僕が助けてあげようと思いました。

入選作品

家族がくれた自信

柏市立柏第三小学校

五年

川村 かわむら

芽生 めい

私は、林間学校の飯ごう炊飯で調理係になりました。よく考えてみたら、私は料理をしたことがないので少し不安になってしまいました。そして、お母さんに聞いてみると、やさそばの作り方を教えてあげると言っていたので少し安心しました。

ゴールデンウィークの最終日に、料理の練習をしました。ソースをまんべんなくかけて混ぜることが難しかったです。

そして、家族に食べてもらうときが来ました。このとき私は、

「おいしいかな」

とドキドキしていました。でも、いざ家族に食べてもらうと、

「おいしいねーおいしいねー」

と返事が返ってきました。そのときは、なにか認められた気がしてうれしかったです。

私は、料理がうまくないと勝手に思いこんでいましたが、おいしいと言ってもらえて自信がつかしました。次もまた挑戦したいです。

家族の笑顔

松戸市立幸谷小学校

五年

江 こう

鈞欽 きんきん

私の家族は四人の家族です。家族の一人ひとりには笑顔があります。

お父さんは美味しい物を食べたたら、笑顔を出します。お母さんは温泉に行ったら、笑顔を出します。私はテストで百点を取ったら、笑顔を出します。妹は新しいおもちゃがあると笑顔を出します。いつも家の雰囲気はとってもいいと思います。

ある日、友達の前持ちはよくないです。私は、「どうしたの?」と言いました。

「昨日、私の兄の悪口をお父さんに言いました。兄も昨日知ってました。そして兄は私を無視しました。」と友達は言いました。

「大丈夫です。方法がありますよ!あなたが笑顔になって、お兄さんにごめんなさいって言えばいいんです。」

と私は言いました。

「そうなの?ありがとう!」

友達が嬉しくなりました。

笑顔という言葉は大切です。どこでも使えます。そして笑顔はみんなを喜ばせます。

入選作品

おばあちゃんへのおん返し

流山市立長崎小学校 五年 古賀^{こが} 陽和子^{ひなこ}

私の家は少し学校からはなれたところにあります。お父さんとお母さんの帰りがおそいときは、おばあちゃんが学校の前のコンビニまで迎えにきてくれていました。いつも、おかしを買ってくれたり、おいしいご飯をたくさん作ってくれました。うれしけれど、どこかで当たり前だと思っていました。ところが、おばあちゃんがとぜん足に大ケガをして、しばらく入院してしまいました。いつも来てくれていたコンビニの前におばあちゃんの姿はありません。私はさみしいなと思いました。おばあちゃんのご飯がなつかしくなりました。いつもおばあちゃんが来てくれることは当たり前ではなく、本当は特別なことだったのだということに、初めて気づきました。おばあちゃん、これから元気になるために毎日リハビリをがんばらなければいけません。おばあちゃんにこれまでたくさん支えてもらったことを、今度は私がお手伝いをして、おん返しをしたいと思っています。

「当たり前」じゃない

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 小玉^{こだま} 薫音^{ゆきね}

わたしのお母さんは、朝早く家を出て仕事行つて夕方帰ってくる。お姉ちゃんは中学生で帰ってくるのがおそい。だからわたしは学校が終わると一人なのだ。

そんな時、わたしはいつもどうして他の人は帰つたらお母さんが『おかえり』と言ってくれるのにわたしは帰つてもだれもないのだろうか、そんなに仕事が大事なのだろうか、と思つていた。しかし、わたしは休日にもいつもいっしょに遊んでくれていることと、仕事が終わった後に、わたしたちのためにおいしいごはんを作ってくれているということに気がついた。

お母さんは、仕事だけではなく、わたしたちのために「当たり前」と思つていたことを一生懸命やってくれていたのだ。

お母さんのすがたを見てわたしも少しでも家族のためにせたくものをたんだり、料理のお手伝いをしたり自分のできることをしっかりやろうと思う。

入選作品

自慢の家族の励ましの言葉

柏市立光ヶ丘小学校 五年 小山 燈 こやま あかり

学校でダンス実行委員決めが始まった。体育発表会のダンスを決めないといけないのだ。

私は正直、自信がなかった。けれども、私は前にお母さんが

「四年生では、あまりいろいろな事にチャレンジできなかったから、五年生になったらいろいろな事にチャレンジしてみな。その方が、六年生はいろいろな事にチャレンジしないとならないから、五年生のうちにチャレンジしておいた方がいいよ。」と言ってくれたことを思いだして、私は勇気をだして手をあげた。ダンスを考えることはすごく難しかったけど、完成してみんなに褒められるのは、すごく嬉しかった。

お母さんのあの言葉で、積極的に手を挙げたり、キャンドルファイヤー実行委員になったりしてクラス役にたてた。すごく嬉しかった。最近、難しい問題も解けたり、解くスピードが速くなったり、テストの点数も良くなったり、私は一日ですごく成長していると思った。お母さんの一言に私は感謝している。

ぼくの誕生日

柏市立柏第三小学校 五年 佐久間 架太 さくま かぶと

毎年、祖母はぼくの誕生日になると、母親のスマホにメッセージを送ってぼくを祝ってくれます。

でも今年は夕方までその連絡がこなくて、「とうとう、誕生日忘れられちゃったか。」と思い、少し悲しくなってきました。でも、そう思ってから十分程たち、もう諦めかけた時祖母からのメッセージが母親のスマホに送られてきて、ぼくはとても安心しました。後から祖母に聞いた話だと、夕方まで連絡しなかったのは、ぼくの習い事の時間帯だったからだそうです。

そんな気づかいにぼくは感動して、何か自分にかけることはないかと探していると、皿洗いを思いつきチャレンジしてみました。最初はよくわからなかったのですが、母親にどうやったらいいのと聞き、聞いたことをしっかり覚え皿洗いができるようにになりました。それを毎日続けようと思います。分からないことを教えてくれる家族に感謝しています。

入選作品

甘くないたまご焼き

柏市立風早北部小学校 五年 佐竹^{さたけ} 凜和^{りんあ}

わたしの家族のご飯の担当は、朝がお父さん、夜がお母さんだ。

お父さんは、甘いのが好きじゃない。お父さんが作るたまご焼きは甘くない。しかも少しこげている。だから私は、お父さんが作るたまご焼きは、あまり好きではない。

だから昔、たまご焼きを捨てた。お父さんと大喧嘩をした。次の日の朝にあやまろうと決心した。次の日の朝になった。朝ご飯の時に、つい私は、「このたまご焼き甘い?」

と聞いてしまった。そしたら、お父さんが、「うん、甘いよ。」

と言ってくれた。食べてみるといつもより甘いけど、お母さんが作るたまご焼きの方が甘い。だけど、私のために甘くしてくれてうれしかった。そして今、気がついた。甘くても甘くなくても私は、お父さんが作るたまご焼きがとても大好きなんだ。

大切な存在

柏市立柏第四小学校 五年 清水^{しみず} 果乃葉^{かのは}

私の毎日には姉の存在が欠かせません。笑うときも泣くときもとなりにいてくれる人、それが姉です。姉は、私にとって一番の味方で元気がないときはいつも優しく話しかけてくれたり、私の好きなことを一緒にしてくれたりするので楽しい時間を過ごせます。また、姉は外で体を動かすことが大好きなのでよく遊びに誘ってくれます。最初は少し嫌だったけれどだんだん好きになり、姉と遊ぶことが今では楽しみになっています。時々わからないことがあってもすぐく一生懸命で、私が悩んでいるときにはしっかりと私の話を聞いてくれてその優しさや思いやりには私もとても助けられています。姉はすぐくおもしろくてよく笑わせてくれるし、そんな時は心がとても軽くなり、姉といるとどんなに小さなことでも楽しく感じられるので私はそんな姉が大好きです。

これからは私も姉のように大切な人に元気を与えられるような人になりたいです。

入選作品

母との漢字勉強

柏市立光ヶ丘小学校

五年

菅野 すがの

陽凜 ひより

私は最初、漢字が苦手でした。なので漢検を受けて、漢字を得意にしようと思い勉強をしました。けれどもなかなか覚えられなくて母にどのように勉強したらわかりやすく覚えられるかと相談しました。そしたら母が

「ノートに問題の答えを書いて私が丸つけをするから間違えた所を二十回、三十回書いて覚えていくのはどうかな？」

と言ってくれて私は心の中で「覚えやすい！」と思い勉強しました。

そして試験当日、母と今まで一緒に勉強した成果を無駄にしないためにも頑張つて問題を解きました。試験が終わってから二週間後テストの紙が返ってきて点数を見たら、なんと二百点中の百八十点でした。私はとてもうれしくて母に真っ先に試験の結果を伝えました。母はたくさんほめてくれて母以外のみんなも「よかったね。」とか「すごいね。」と言ってくれてとてもうれしかったです。この点数が取れたのは勉強と一緒にしてくれた母のおかげです。母には感謝しかありません。

家族のきずなパン

柏市立柏第七小学校

五年

須藤 すとう

瑛穂 あきは

わたしは、最近家でパンを作っています。パンを作るきっかけは、どのようにしてふわふわになるのが気になったので、実際に作って実験してみることにしました。

お父さんに相談したら協力してくれるというのでいっしょに材料を買いに行き、クロワッサンを作ることにしました。一番むずかしかった所は、生地に穴が空かないようにうすく、均等に伸ばすことです。わたしがむずかしいと思うことを、お父さんがたくさん手伝ってくれました。お互い話し合い、助け合う事で、きずなが生まれたと思います。

出来上がった時、ふっくらしすぎて全て親子のようにくっついていました。家族三人で食べたとしてもおいしくてみんな笑顔になりました。そしてパンがあつというまになくなってしまいました。心をこめて作りみんなが笑顔になった事もきずなだと思うのでこのパンを「家族のきずなパン」とよぶ事にしました。

入選作品

僕の世界一のおじいちゃん

柏市立風早北部小学校 五年 相馬 そうま 颯人 はやと

僕のおじいちゃんは、九十八歳で旅立った。僕のおじいちゃんはお年玉はくれなかったけど、そのかわりぞんぶんに遊んでくれたり何でも買ってくれる最高のおじいちゃんだった。ですが僕のおじいちゃんはおじいちゃんじゃなくなった。病院にはんそうされたけど一時間後に亡くなった。僕は深くきずついた。次の日、僕はベッドのもうふの中に丸くなっていた。そのとき僕はおじいちゃんが言っていたことを思い出した。

「ただ泣いているだけじゃなにも始まらない。まっすぐに自分はずき進め。」

と言っていたことを思い出して僕はもうふの中からでてきて次の日は学校に行った。僕は学校に行くとちゅうで心の中でこう言った。

「おじいちゃんありがとう。そのことを思い出して僕は勇気をもてたよ…。」

と、僕は心のなかで強く思った。学校についたあと、僕はおじいちゃんのことを世界一のおじいちゃんと教室で言った。

大切な人

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 竹内 たけうち 菜波 ななみ

私は、家族のありがたさをあらためて感じた場面がありました。それはたんじゅんな事だし、さりげない事だけど、いつも悲しい事があった時にいつもそばにいて話をきいてくれたりする。それはあたりまえかもしれないけどその幸せがいつまで続くかはわからないからちゃんと一つ一つの事に「ありがとう。」

などと言えるといいのかと思いました。

私は、四年生の時に友達関係の事でなやんでいた時にお母さんが言った忘れられない一言があります。それは、

「私はいつでもあなたの味方だからね。」

という言葉です。この言葉で悲しい時とかも私にもちゃんと味方がいるんだなと思いとてもうれしかったし安心しました。なので、これからは、自分が少しでもお母さんやお父さんの力になれるように「手伝うよ。」

などと言ってあげたいと思いました。

入選作品

家族のおかげ

鎌ヶ谷市立道野辺小学校

五年

立山 たてやま

彩 あや

私は、一年生のころから児童会という学校のリーダーをやってみたいと思っていました。

その理由は、児童会のひとたちにあこがれたからです。児童会のみなさんが一生懸命学校のためにがんばっている姿を見て、

「私もみんなのため、学校のためにがんばれる児童会になりたい！」

と思いました。そのことを家族に言うのと、

「あやならでできる！応援してるよ。」

など、たくさん声をかけてくれました。

ついに、投票の日がきました。学校へ行く前に、「がんばってね。」と言ってくれました。

発表をして、みんなに投票してもらった結果、ずつとなりたかった児童会にできました。とてもうれしくて帰ってきたらすぐ家族に言いました。

「よかったじゃん、おめでとー！」

と、言ってくれて、児童会になれたのは家族のおかげだと思いました。

これからも、がんばろうと思います。

きせき

流山市立長崎小学校

五年

田中 たなか

響 ひびき

なぜエッセイタイトルがきせきだというと、ぼくがうまれたからです。なぜそれがきせきだかというと、ふつうみんなこどもは生まれるものと思っていた人が多いと思いますが、おなかの中であかちゃんが亡くなった人だっています。

ぼくはひとりっこですが、本当はぼくにはお兄ちゃんがいきました。ですが、なぜお兄ちゃんがいなかったかというと、びょうきで体がよわくておなかの中で亡くなってしまいました。そうして、ぼくがおなかの中にできて生まれました。それで、お母さんとお父さんが大切にそだててくれました。そうして、ぼくは十才です。おにいちゃんは十四才（中二）です。ぼくは、ここまでお母さんとお父さんが大切にそだててくれました。

そのことが本当にきせきだと思います。

入選作品

大切なお父さん

鎌ヶ谷市立道野辺小学校

五年

豊島 とよしま

士恩 しおん

ぼくのお父さんはいつもぼくにサッカーをおしえてくれる。サッカーの練習が終わってからいつもアドバイスをくれる。そのアドバイスで次の練習にかそうとする。お父さんがサッカーのことでぼくにおこるのは、もつとくまくなつてほしいからおこる。それは、いつもではなく、自分ができるプレーをしないからおこる。ぼくは、くやしくて泣いている。でも、それを言ってくれてる時、ぼくはとてもうれしいです。お父さんがアドバイスを言ってくれないのは、しんようがうしなわれてるから。それを言うてくれるだけ、ぼくはうれしい。ぼくは、いつもその時間を「大切なな」と心の中で思っている。いつもアドバイスをくれて話が終わったあといつも「ありがとう」と言ったりしている。お母さんにも、「あとでちゃんと、ありがとうって言いなよ」と言ってくれるからぼくもわすれず言うことができる。ぼくは、いつもこう思っている。

「ありがとうぼくのお父さん。」

家族という存在の大切さ

松戸市立小金小学校

五年

中村 なかむら

時啓 ときひろ

「人と人との間の、断つことのできない結びつき。」これは、国語辞典に書かれていた『絆』の意味です。ぼくは、人にこうだ。と決めつけられるのがきらいです。それだけではなく、ぼくは相手に注意されるのもきらいです。しかも、お姉ちゃんは、すぐこうだ、ああだと決めつけてきて、お父さん、お母さんはすぐ注意してきます。でも、自然と注意されたり、文句を言われているうちにこれをこうすればいいんだな、あれはどうすればいいんだなとわかってきます。

「あれっ。」

ぼくは思いました。そうか『絆』は、『存在』の大事さを物語っている。逆に『存在』は、『絆』の大事さを物語っている。つまり、家族は一度に二つの事を教えてくれているのです。ぼくはそれから、家族に毎日感謝を伝えたいと思うようになりました。

入選作品

ぼくの大切な家族

流山市立長崎小学校

五年

成嶋 なるしま

瞭駕 りょうが

ぼくは、五人家族です。兄一人弟一人います。ぼくは、一年生のころから学校へ行くのがいやで、毎日泣いていました。だけど家族は、ぼくをばげまし、いっしょに登校してくれました。学校へついたら、兄が教室までついてきてくれました。いつもけんかをしてる兄だけど、兄のやさしさを感じました。また天気の良い日は、学校へ車でむかえに来てくれました。その時は、うれしかったです。ぼくは、苦手な子と仲良くすることが不得意で、時々けんかをしてしまいます。その時もぼくの両親は、なんで友達とけんかをしてしまったのか、原因をいっしょに探してくれました。

家族はいつもぼくの味方になってくれます。ぼくは、そんな家族が大好きです。ぼくも大切にしてくれた分、困っている時は助けたいです。

そばにいる人

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

福田 ふくだ

梨央 りお

私は家族がいると、すぐく落ち着きます。家族は、悲しい時も、うれしい時もいつでも話を聞いてくれます。なので落ち着きます。

家族全員が家にいるのは、祝日や土日だけです。一週間に二、三日ほどだけみんなで出かけたり、遊んだりするだけでも、家族全員が横にいるのは絶対に変わりません。いやなことがあった時、悲しくなった時に話してなくても、心と心で会話しているような気持ちになり、すぐく落ち着きます。父が仕事で、平日は少ししか全員で話すことがないけれど、週に二回だけの土日でもいっしょにご飯を食べたり、勉強を教えてもらったり、話したり、そして、同じ部屋にいただけで、おたがいの心と心で通じあって、おたがいでなくさめあっている気持ちになります。

けんかをしたり、言いあいになることもあるけれど私のことを一番分かっているのは家族だし、一番はげましてくれます。私は、自分も相手の大切な人になりたいです。

入選作品

当たり前の日常

柏市立風早北部小学校 五年 藤本 陽菜 ふじもと はな

四年前のことでした。そのころはコロナという病気がはやっていてみんながマスクをしていた時でした。それから数日がすぎて、私の家族もかかってしまいました。私は四人家族で母、父、お姉ちゃん、私の家族構成なのですが、私以外の三人がコロナにかかってしまいました。その時は、母から

「近づくともコロナにかかっちゃうから近づかないでね。」

と、いわれました。その三人がコロナにかかっていると私はたいへんでした。服をせんとくする人がいなくて、ご飯を作る人もいなくて悲しい時でした。その時、私は思いました。「せんとくしてもらうのも、ごはんを作ってもらうのも全部当たり前じゃないんだ。」

そしてコロナにかかっていた三人も薬をのみつけ、ついにコロナが治ったのです。そしてコロナにかかる前の日常がもどってきました。その時から私は「ありがとう。」をもっと言うようになりました。こんな日常が続いたらいいな。

バアバの死

柏市立柏第四小学校 五年 前田 遥人 まえだ はると

バアバが半年前になくなりました。いろんなことをしてくれて、体調や歩くのがたいへんなのに、おかしやおもちやを買ってくれた。

もっと体調が悪くなって、入院しないといけなかったけど、ほんとと一緒にいたくてギリギリまですごした。

入院して少したったころ、コロナにかかった。コロナは治ったけど後いしょうでしゃべれなくなっていた。ぼくの声だけ聞こえて、反のうしてがんばってしゃべろうとしてくれた。うれしかった。その日の夜になくなった。

いつもそばにいてくれてるのが当たり前だと思っただけあまり悲しくなかった。

バアバがいつも声をかけてくれた

「おはよう、いつてらっしゃい。」

「おかえり。」

「また明日。」

が、なくなると、少したつてさびしくなった。

バアバがぼくの成長をすごく楽しみにしていたから、これからはがんばろうと思う。

入選作品

家族へありがとう

鎌ヶ谷市立道野辺小学校

五年

まつもと
松本

れんたろう
廉太郎

僕のおばあちゃんは去年、乳がんになった。家に帰ってくるとお母さんが泣いていて、それをお父さんがなくさめていた。

お父さんが真剣な顔をして話し始めた。おばあちゃんが乳がんになったと聞き、僕も涙がこみ上げてきた。しかもおばあちゃんは福井にいて会いに行くこともできなかった。

そして会うこともできずに手術の日がやってきた。僕たちはただ手術が成功することを願った。次の日に良い知らせが入った。手術が成功した。何日かたち退院した。おばあちゃんに会うと思わず涙がこぼれそうになった。

がんにたちむかったおばあちゃんと、お母さんをなくさめていたお父さんはかっこいいなと思いました。

お父さん、お母さん、妹、おじいちゃん、おばあちゃん、生きててくれてありがとう。

協力は力なり

柏市立光ヶ丘小学校

五年

みやはら
宮原

はると
悠人

僕が四年生のころ、学校をひっぱっていく児童会にあこがれていました。

その時、「児童会やってみようかな」と思いました。ですが、自信がなくあきらめてしまいそうになりました。その事を家族に相談してみたら、

「いいじゃん自信もてよー。」

とみんな応援してくれました。

それからは「自分は学校のために何ができるか」を考えていました。

おそらく、あの時家族が応援してくれなければ他の人が児童会になっていたのかもしれない。

家族みんながぼくの事を応援してくれたからきっと今の自分があると思います。

ですからぼくは困った時、つまずいた時は、家族と協力していっしょにのりこえたいと思いました。

「いつもありがとう。」

入選作品

家族で成功、発表会!!

柏市立柏第四小学校

五年

宗像 むなかた

杏友 あゆ

私が、家族のきずなを感じたことは、ピアノの発表会で一緒に演奏してくれた時のことです。

毎年、四月の初めにピアノの発表会があり、第二部の連弾で母さんはピアノ、お父さんはギターと一緒に弾きました。去年は少しだけ間違えてしまったので、今年は三人で成功させようと思い練習をしました。お父さんは、仕事で疲れた夜でも練習をし、母さんは、あいている時間を見つけ、練習に取り組みました。私も、精一杯練習に取り組み家族全員で本番をむかえました。

本番直前まで力を合わせて練習することで、今年も成功できたと思います。

お兄ちゃんは、サッカーの試合で参加できなかったけど、

「おれもサッカーがんばるから、三人もがんばって。」と、おうえんしてくれました。本当に、家族全員で成功できたと思います。

大好きなひいおばあちゃん

流山市立長崎小学校

五年

村中 むらなか

咲良 さくら

私には、大好きなひいおばあちゃんがいました。百一才まで畑仕事をしていて、毎年おいしい野菜を送ってくれました。私の初めての離乳食は、ひいおばあちゃんの作ったジャガイモでした。また、手先も器用で、毛糸でくつしたを編んでくれたり、着物のハギレでお手玉を作ってくれたりしました。ひいおばあちゃんは、とても優しくて色んなことを教えてくれました。百三才を迎えた翌月、ひいおばあちゃんは旅立ちました。亡くなったことを知って、うそだと思いたかったです。あんなに元気だったので、信じられませんでした。その日は、ずっと泣いていました。そして、ひいおばあちゃんのお葬式の日、ひいおばあちゃんの顔を見た時、まるで寝ている様でした。

私の記憶に残るまで長生きしてくれてありがとうございます。ずっと大好きだよ。

家族のエール

松戸市立小金小学校

五年

門馬 もんま

汐音 しおん

私が家族という言葉聞いて真っ先に思うんだことは家族の応援です。私の家族は誰かが一生懸命頑張っている時は家族みんなで応援し支え合います。

例えば私の運動会や習い事のピアノの発表会の時はいつも応援しにきてくれます。お父さんはわざわざ会社を休んで応援しにきてくれることもありました。最初のうちは家族みんなで応援しにきてもらうことがはずかしく感じていましたが、家族の応援があると緊張がほぐれ、全力で取り組むことができることに気が付きました。家族が応援しにきてくれることは当たり前だと思いましたが応援してもらえることはとても幸せなことなんだと思いました。

私も家族の誰かが頑張っている時は精一杯応援したいです。そして、いつも私にあなたかいエールをくれる家族に感謝していききたいです。

だいすき

柏市立柏第七小学校

五年

渡邊 わたなべ

はな

私には二年とし下の妹がいます。その妹はすぐにどこかへいってしまいとつてもわがままです。でも、ある時にきずなを感じたのです。

おじいちゃんとおばあちゃんの家の近くでやっているフェスに行きました。私とお父さんでなぞときをしている間に妹がはなれてどこかへ行ってしまったのです。お母さんだけでは見つからず、なぞときをおえたお父さんと私もさがしはじめました。二十分以上さがしたけれどいけません。そして私がかいだんのすぐそばの道を走ると、かいだんのおどりで妹が泣いているのを見つけました。私が妹の方へ走っていくと妹が大泣きしながら私の方へ歩いてきました。私はそばにきた妹をぎゅーっとだきしめました。すると妹が

「ねえねえ。」

と言いました。妹の目はまっ赤でした。私はお母さんとお父さんにれんらくして来てもらいました。妹はだまって二人をだきしめました。帰りの車で妹は私の方を向いて

「だいすき。」

と言いました。私も妹がだいすきです。

令和 8 年度

募集要項

応募資格

令和8年度、東葛6市（柏・我孫子・鎌ケ谷・流山・野田・松戸）の小学校に通う5年生

応募方法

- 400字づめ原稿用紙1枚以内。
- 応募用紙は令和8年4月を目安に各小学校へ配布します。学校ごとに取りまとめ御応募ください。（裏面が原稿用紙になっています）

応募期間

令和8年4月1日(木)～ 8月30日(月)頃を予定

賞

千葉県知事賞・柏市長賞・松戸市長賞・柏市教育長賞・松戸市教育長賞・柏市小中学校校長会会長賞・柏市PTA連絡協議会賞・ジェイコム賞・麗澤大学賞・モラロジー道德教育財団賞
入賞 10作品
入選 40作品

発表・表彰

- 入賞・入選作品の発表と表彰式を行います。（11月下旬から1月中で計画中）
- 入賞・入選作品は主催者発行の「エッセイ集」並びにホームページに掲載させていただきます。また、協賛企業にて作品のパネル展示を行います。

「家族のきずな」エッセイ集

令和7年10月25日発行(非売品)

発行 公益財団法人

モラロジー道德教育財団

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号

☎04-7173-3111(代)

<https://www.moralogy.jp/>

主催者の許可なく転載を禁止します。 3500



「家族のきずな」エッセイ集



【協賛企業・団体】

敬称略

青木建設(株)
家の光製本梱包(株)
(株)岩田印刷
SMBC日興証券(株)
(株)エヌ・ワイ・ピー
柏モラロジー事務所
サンケイ総合印刷(株)
シナノ印刷(株)
すみ建具店
精文堂印刷(株)
ダイアナえがお 大久保聖子
(株)ダイキョープラザ
(株)太平印刷社
武田建装(株)

千葉県モラロジー協議会
東武バスセントラル(株)
流山モラロジー事務所
(有)野上モータース
(株)花園サービス
(株)フーサワ
(有)丸勝電気
松戸モラロジー事務所
(株)三菱UFJ銀行 松戸西口支店
横山印刷(株)
(株)れいたくサービス

(株)ジェイコム千葉東関東局
(株)柏市民新聞社
(株)東葛毎日新聞社
イオンモール(株)柏店
イオンリテール(株)鎌ヶ谷店

(株)クリエイトリック
セブンパークアリオ柏
テラスモール 松戸
パレット 柏
三井不動産商業マネジメント(株)
リフレッシュプラザ 柏

このエッセイ集は皆様からのご寄付を活用して作成しています。
本事業に賛同いただける方は右のHPよりご寄付願います。

